

あるいは、詩ではなくともいいのかもしれない

『あるいは、詩ではなくともいいのかもしれない』

冬の三角形 夜空に大きく白いため息
僕は おうむ返しでしか言葉を返せない
だから ママを悲しませてしまっても
僕はただただ おろおろと立ち尽くすばかりさ
大好きなママが泣いていても
何もしてあげられないなんて
そんな時 僕は本当に泣きたくなるんだ
ある時 僕は発見したのさ
僕が笑っている時 ママも一緒に } ★
笑っているってことをね }
その瞬間はとても幸せだったから } ☆
僕は決めたんだ }

楽しいことを考えて できるだけ笑っていようと
でもね 辛いことがあると つい忘れてしまうのさ
ママ ごめんね ママは僕にこう言うのさ
「お前のことが大好きなんだよ」ってね
☆ くり返し

ありがとう 本当にありがとう こういう場合に
その言葉を言えばいいのかな？
★ ☆ くり返し

ママのやさしさも 星の瞬きも 僕の心をふるわせ揺
さぶっていく
その感動を言葉にしようとしても うまく形には
ならないんだけど
たとえ詩にならなくたっていい
とぎれとぎれになってしまうかもしれないけれど
かもしれないけれど
いつも後回しにしているその大切な言葉を
今こそ伝えてみるんだ
☆ くり返し

僕は決めたんだ

あるいは 詩ではなくともいいのかもしれない

作詞 曾根 攻



障害者に対する差別や偏見は今もあります。でも、障害の有無に関わらず、全ての命がたった一つの尊いもので、共に支え合うべき存在であるはずです。そんなことを自閉症の兄から教えられたように感じます。

作曲・演奏

岩崎 けんいち



気づきもまた、詩になるのだと思わせてくれました。これは大きな発見。曲をつけると詩になる不思議だから、詩ですと宣言すればそれは詩になる。どうしたら伝えられるかを考えて行く事が大事なことです。